

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① 1年：地域を知る

第1学年では、身近な地域社会に関心をもち、意欲的に取り組む資質を養うために「地域を知る」というテーマを設定した。その中で、「歴史・文化」「福祉」「自然・環境」「安全・防災」の4つの講座を設け、地域に出向き、様々な体験活動や探求学習を通して地域についての学習を深めた。また、各講座の活動を単なる調査活動に終わらせず、観察・訪問・発表、創造的表現活動・制作活動など体験的学習や問題解決学習を積極的に取り入れた。

ア 東川の環境調査

校区を流れる東川の水生生物や水質を調べ、身近な環境問題を考える活動を行った。どんな生物がいるかを調べるだけでなく、水質を自分たちで調べることによって環境を守ることの大切さを実感することができた。

イ 地域の施設との交流

本校区の公民館、スーパー、病院、児童センター等の施設に、本校の様子を掲載した学校新聞を掲示させていただいた。学校のPRだけでなく、直接的な地域とのつながりが実感できる活動になった。

ウ 介護施設への訪問

「グループホーム微笑の家」「夕日館」「おくらの里」などの介護施設を訪問し、お年寄りの方々と交流会を実施した。お年寄りの方々に喜んでほしいという気持ちから、クイズやゲーム、歌などの企画を考え訪問した。事前に制作したプレゼントも好評で、温かい雰囲気での活動することができた。また、清掃活動やお年寄りの方との触れ合いに積極的に取り組む姿が見られた。生徒の感想からは、普段では学べないことを学ぶことができたという満足感が表現されていた。

エ 防災や安全についての調査

校区の危険箇所を歩いて調べたり、災害への備えについて考えたりする活動を中心に学習を進めていった。東日本大震災や昨今の異常気象に関心をもつ生徒が多く、「自分たちが安心して生活するためには」という視点で調べる活動を行った。

② 全校：空き缶アート制作

「空き缶アート制作」を核に身近な環境問題を考え、地域と交流し、生徒からのメッセージを発信する。その発展として、環境保全に貢献する人材を育成していくことをねらいとしている。また、総合的な学習を中心とした地域学習を進め、校区やふるさとのよさを実感させるとともに、地域の一員としての自覚を深め、地域に貢献する力へとつなげたいと考えて実践している。

ア 空き缶回収

生徒会が中心となり、「空き缶アート」のテーマ、図案、制作の日程、役割分担等、自主的に計画を立て実施した。まず、生徒会が中心となりリサイクル活動の説明をして、空き缶の回収を呼びかけた。空き缶を集めることと並行して、3年生を中心に前年度の空き缶を外した。

